

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2023年8月22日(火)19:30～

会場：添島歯科クリニック研修室

- 一般講演抄録 1 -

マイクロスコープを応用した精密ダイレクトボンディング

～Ⅱ級窩洞の詳細レシピ～

陶山 新吾 陶山歯科医院 〒830-0023 福岡県久留米市中央町 11-9

■抄録

MI の概念は、2000 年に FDI（国際歯科連盟）により提唱されてから広く浸透し、修復治療を行う際には考慮すべき概念となっている。MI の概念の中で最も浸透しているのは、う窩形成病変への最小の侵襲により修復処置を行うことである。接着歯学の進歩もあいまって、可能な限り歯を温存することが推奨されるようになってきた。

白歯の隣接面を含むⅡ級窩洞の治療を行う場合、直接法か間接法を選択することになる。間接法は、補綴修復装置のマテリアルスペースや着脱方向などの要因により、便宜的に歯質を削除する必要がある。一方、直接法によるコンポジットレジン修復治療は、便宜的に歯質を削除する必要がない最大のメリットがあるが、デメリットは口腔内で直接成型する必要があることである。そのため、他の修復治療と比較するとテクニックが必要となるため、敬遠されやすいのではないだろうか。

今回初診時 28 歳女性、う蝕治療を主訴に来院。白歯部に隣接面を含むう蝕と不適合修復物を認めた。MI の概念である、う窩形成病変への最小の侵襲により修復処置を行うこと、問題が生じた修復物はリペアで対応を行うことが可能となる点から直接法であるダイレクトボンディングを選択した。直接法で処置を行う際に難易度が高い思われている、隣接面コンタクトの付与と咬合接触点を回復するためのポイントについて

マイクロスコープ下で治療を行なっている動画を供覧し、詳細な充填レシピと細かいテクニックを解説する。

今回の発表は、2023 年 9 月に開催される『World Young Dental Innovators' Meeting 2023』で発表する演題です。皆様からのご指導をよろしくお願い致します。